

毎月第3日曜は「家庭の日」

子育てにおいて家庭が果たす役割は大変重要です。そこで、家族のきずなを大切にすると、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、併せて月別の取組みテーマを提案しています。

【月別テーマ】

4月 社会のルールやマナーを身につける
5月 家族で一緒に過ごす時間を増やす
6月 家族みんなで自然に親しむ
7月 夏休みの交通事故や水の事故、
子どもの非行を防ぐ
8月 地域の人々とふれあい、交流を深める
9月 お年寄りを敬い、お互いを思いやる

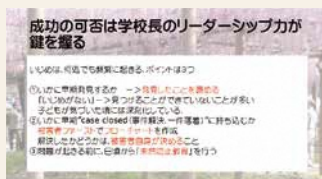
山形県青少年育成県民会議の活動にご理解とご協力をお願いします！

地域の大人のための インターネット利用に関する研修会

11月24日（水）、県庁講堂にて「地域の大人のためのインターネット利用に関する研修会」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン形式で実施し、山形大学学術研究院准教授の加納寛子氏が「スマホとSNSに関する子どもたちの諸問題への対処について～「ネットいじめ」を防ぐためにできること～」と題し講演。県内青少年育成関係機関職員や学校関係者等約70名が参加しました。

講師の加納氏は「いじめは伝染する。デマや憶測に踊らされ、他者への悪口を発信するような大人の姿を見ると子どもたちも真似をしてしまう」と注意喚起し、いじめはどこでも起きるものであり、「早期発見（いじめ発見を褒める）」「早期解決（被害者ファースト）」「未然防止教育（いじめ問題を考えるきっかけ作り）」の3つが重要であると説きました。



青少年のための環境づくり懇談会

11月24日(水)に県庁講堂にて「令和3年度青少年のための環境づくり懇談会」をオンラインで開催し、各関係機関及び関係業界団体の代表者等が出席しました。

はじめに県の関係各課担当者が、少年補導やいじめ、児童虐待の現状などについて報告。続いて、若年層の薬物乱用の防止対策、ヤングケアラー(※)の実態把握と今後の対応、ネット上のサイバーパトロール要領等について質疑が行われた他、初参加の山形県eスポーツ協会から、ネットモラル等の適切な指導に努めていく旨の報告がありました。最後に、「令和3年度青少年のための環境づくり懇談会申し合わせ事項」が承認、決定され、関係業界がこれに基づき、今後の青少年を取り巻く環境の浄化に取り組むことを約束しました。

(※)親や祖父母、年下の兄弟等の介護や世話を担う18歳未満の児童。



広報啓発活動の実施

モンテディオ山形ホーム戦で「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動広報・啓発活動を実施

11月3日（水・祝）NDソフトスタジアム山形で開催されたモンテディオ山形ホーム戦において、「児童虐待防止オレンジリボンキャンペーン」と連携して、「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動の広報・啓発活動を実施しました。



山形県青少年育成 県民会議入会のお願い

次世代を担う青少年の健全育成を図るため、「大人が変われば子どもも変わる」県民運動や「いじめ・非行をなくそう。やまがた県民運動を展開しています。当会議の活動は、皆さんからの会費によって支えられています。活動や趣旨にご賛同・ご協力いただける新規会員の方を募集しております。機関誌をご覧ください。皆様からも、ぜひお声がけをお願いいたします。

☆会員の種類と会費

- ・特別会員（103万円）
- ・賛助会員（105千円）
- ・団体会員（101千円）
- ・個人会員（101千円）



問合せ・申込み先

山形県青少年育成県民会議事務局

(県女性・若者活躍推進課内)

T E L : 023-630-2727

F A X : 023-632-8238



見守る目・育む芽 46

目次	P2	2021 輝く県民活躍大賞受賞団体の紹介
	P3	県民運動各地区実践レポート
	P4	お知らせ



～「春のあんしんネット・新学期一斉行動」を実施しています～

2月～5月

春の卒業・進学・新入学の季節は、毎年多くの子ども達が初めて自分専用のスマートフォン等を手にする時期でもあります。国や県の関係機関ではこの期間に重点を置き、スマートフォン等の安全・安心な利用のための働きかけを連携して行っています。



青少年のインターネット利用状況

県教育庁の調査によると、児童生徒のインターネット接続機器の所有率は学年が上がるごとに上昇しています。また、GIGAスクール構想による1人1台端末の配置が進み、家庭への持ち帰りなどネット利用の機会が更に増えている一方で、フィルタリングの設定率は4～5割程度と低い状況です。

我が家の「インターネット・スマホ利用のルール」を作しましょう

ルール 作りの例

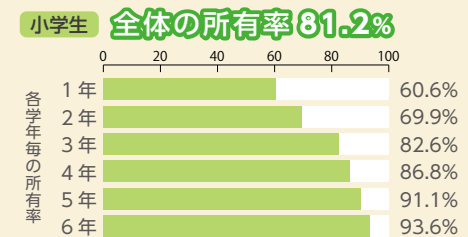
- ・利用する時間帯や、置き場所を決める
- ・ネットで知り合った人に、自分の名前や住所を教えない
- ・悩みやトラブルは必ず保護者に報告・連絡・相談する
- ・パスワードは保護者が管理する …など



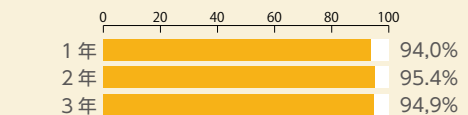
家庭での積極的な取組みと見守りが、犯罪被害やネットトラブルから子ども達を守ります。親子双方で意見を出し合い、お互いが納得し、尊重しあえるルールを作しましょう。お子様の成長や生活習慣の変化に合わせて、ルールの見直しをすることも大切です。また、フィルタリング設定(※)等の機能を活用するのも有効です。

(※)有害なアプリ利用やサイト閲覧を制限できます。機能の詳細は販売店等でご確認ください。

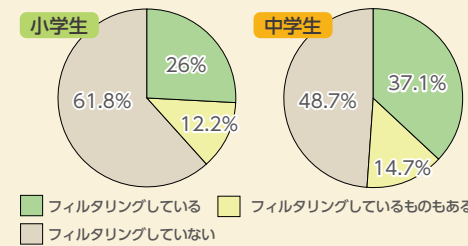
①インターネットにつながるICT機器の所有率



中学生 全体の所有率 94.8%



②フィルタリング設定率



令和3年度情報端末の使用状況及び学校における指導状況の定期調査（県教育庁調査）

青少年の犯罪被害を防ぎましょう！ ～青少年を取り巻く現状～

全国的に若者の大麻乱用が増加しています

令和2年度における警察庁調査では、20歳未満の若者が大麻を初めて使用した動機は、「好奇心、興味本位」(57%)、「その場の雰囲気」(18.5%)の順に多くなっています。

「大麻は、身体への悪影響や依存性はない」等の誤った情報が流れていますが、乱用すると、幻覚作用や運動失調などの深刻な影響に加え、「薬物依存」を引き起こし、心身を破壊します。

間違った情報に流されず、危険性を正しく理解しましょう。

○友達や先輩に誘われたら…断る勇気を持とう！

理由を付けてその場を離れよう！

○ネットで知り合った人に誘われたら…

SNSをブロックするなど

連絡を断とう！



4月から成年年齢が18歳に引き下げられます

成年になると、高校生でも保護者の同意なく契約が可能になる一方で、「未成年者取消権（親などの法定代理人の同意を得ずに結んだ契約を取消しできる権利）」が認められなくなります。

社会経験の浅い若者は、悪質業者に狙われる傾向にあります。安易にその場で契約せず、困ったときは「消費者ホットライン188（いやや）」にお電話を。最寄りの消費生活相談窓口につながります。

【若者に多い相談事例】

・広告の10万円全身脱毛を希望したのに、長時間勧誘されて高額コースを契約してしまった。

・先輩に「簡単に儲かる」「友人を誘えばボーナスが入る」と言われ、借金して情報商材を契約したが儲からない。

【消費者トラブルに遭わないために
～知って安心の最新情報をお届け～】

消費者庁公式LINEアカウント

「消費者庁 若者ナビ」(LINE ID: @caa_z)



2021 輝く県民活躍大賞 受賞団体の紹介

子育て、福祉、まちづくり、環境保全など、県内での社会貢献活動や地域を元気にする活動を行う個人又は団体を顕彰する「輝く県民活躍大賞」(※)。今年度「ジュニア・ユース部門」を受賞した1団体、「若者部門」を受賞した3団体、「一般社会貢献部門」を受賞した3団体を紹介します。

(※)「やまがた公益大賞」と「輝けやまがた若者大賞」は令和3年度より本顕彰制度に統合されました。



★ ジュニア・ユース 部門



庄内農業高等学校
農業部食品加工班(うどん部) 鶴岡市

従来授業で行われてきた「庄農うどん」の製造・販売を、平成30年から農業部食品加工班の生徒が主体となって行っています。高校生が地域の飲食店や商工会と連携してうどんのメニュー開発や宣伝、一般客に提供するイベントを行っています。地域との交流を通じて、高校生が経営やコミュニケーション、地域との関わり方を学ぶとともに、地域訪問数や飲食店売上の増加に貢献しており、活動は地域の話題づくりや賑わいづくりへ寄与しています。

★ 若者 部門



山形県
キックボクシング連盟 山形市

山形市防犯協会に、前団体(Ys.k)がロードワークトレーニングを兼ねた地域の見回り防犯パトロールを申し出て、平成25年に活動を開始しました。

球切れ箇所を確認し街灯復旧改善を提案したり、実際にパトロール中に火災を発見し人命救助を行ったりするなど地域の安心・安全に貢献しています。

また、小・中・高校生が防犯パトロールに参加することで社会貢献を学び、青少年の健全育成につながっています。



チーム
山形大学Team道草 山形市

山形大学エリアキャンパスもがみにおけるフィールドワークにて、金山町のプログラムに参加したことをきっかけに、引き続き町の魅力発信のために地域と協力しながら活動したい学生たちが集い、平成25年に活動を開始しました。

小中学生への学習支援、町内イベントへの協力、PR動画の制作など、地域と連携した事業を行っています。

団体と地域との協働性が高く、町の元氣創出や魅力発信だけでなく、地域を挙げた人材育成にもつながっています。



夢プロジェクト
「竹あかり×ゆき×祈り」実行委員会 米沢市

上杉雪灯籠まつりに合わせ、「米沢をもっと楽しく盛り上げたい」という熱い想いを持った幅広い世代の有志が集まり、平成28年にプロジェクトを立ち上げました。

～地域を照らす・地域を繋ぐ～をコンセプトに「竹あかり」を地域の方々と一緒に作り、各イベントで幻想的な空間をつくっています。

現在は米沢市だけでなく県内一円から演出依頼があり、季節問わず、彩りと感動を繋げるプロジェクトとして広がり、地域を元気にしています。多くの方が地域との関わりを楽しみながら参加することで、地元愛や誇りの醸成につながっています。

★ 一般社会貢献 部門

出羽庄内市民ミュージカル 鶴岡市

ミュージカルを通じた文化伝承や稽古での世代間交流、国内外の観客との交流等により、子どもたちの視野を広げ、人材育成や社会教育につながっています。

尾花沢市
西原地区親睦会(花いっぱい会)

花植え運動やかかしづくりを通じた地域行事を開催し、地域を挙げた賑わいづくりにつながっています。

山形ママコミュニティ
mama*jam(ママジャム) 山形市

県内の母親たちがオンラインで情報交換・交流する場をつくり、女性のキャリア支援や人材育成につながっています。

各地区青少年専門員からの報告

県民運動 各地区実践レポート

県内各地で率先して県民運動に取り組んでいる青少年専門員の皆さんから、令和3年度の活動状況についてレポートを寄せていただきました。



地域と学校が連携し、 特色ある活動の充実を図る

村山地域



9月26日(日)、今年度の村山地区青少年健全育成連絡協議会推進員部会研修会を、大石田町の虹のプラザにおいて実施しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数を50人に限定して開催。村山教育事務所社会教育課長の井上敏春氏が「これから求められる地域と学校の連携・協働について 学校を核とした地域づくり～コミュニティ・スクールと地域協働活動の一体的推進～」と題して講演しました。ICTの発展に伴い、青少年を取り巻く環境が急激に変化する今日。青少年健全育成のためには、これまで以上に地域と学校が連携した特色ある活動の充実が重要になってくることを学んだ研修会でした。

◆村山総合支庁子ども家庭支援課
高橋 政吉・黒田 伸幸

コロナ禍の中で考える、 「幸せな暮らし」とは？

最上地域



12月11日(土)、最上地区青少年育成懇談会が新庄市民プラザで開催されました。

「児童・生徒と地域の大人の対話会」を兼ねて開催された当懇談会。管内高校生徒会と市町村ボランティアサークルの高校生、青少年育成団体の各代表者等45名が参加し、「今、私が考える幸せとは？」をテーマに、熱心な意見交換が行われました。コロナ禍による自粛生活や新しい生活様式が求められる中、幸せについての価値観や意味を、改めて問い直す機会となりました。また、「笑顔と優しさが溢れる最上地域で当たり前」に隠れた幸せに気づこう」等、地域を明るく・元気にするメッセージをまとめ、発信しました。

◆最上総合支庁子ども家庭支援課
笠原 正三

コロナ禍の今こそ、 人と人とのつながりを大切に

置賜地域



置賜地区青少年育成連絡協議会主催の「児童・生徒と地域の大人の対話会」が、12月19日(日)、高島町郷野生涯学習館で開催されました。

「コロナ禍で変化した社会 ～気づいた大切なこと～」をテーマに高島町高校生ボランティアサークル地球(テラ)と小グループでの対話交流を実施。自主性、公益性、創造性の3つの輪を柱に活動する生徒たちの努力に、会場からは共感と称賛が寄せられました。

温かい雰囲気の中、図らずも各々が「人とのつながりを大切に生きる」ことがコロナ禍を生きるポイントであると感じることを、対話会の開催意義を確認する機会となりました。

◆置賜総合支庁子ども家庭支援課
齋藤 芳昭・加藤 公一

6つの会場をオンラインで結んで 「はぐろ大家族会議」

庄内地域



11月16日(火)、鶴岡市青少年育成市民会議(羽黒地区)主催の「はぐろ大家族会議」が、WEB会議方式で開催されました。

今年度は「羽黒を盛り上げる企業を考えよう」をテーマに羽黒庁舎、羽黒高校、4つの地域活動センターをオンラインで結んで実施。羽黒高校や羽黒中学校の生徒からは、リユースやリサイクルなど環境への配慮、SNSやオンラインの活用、世界に向けた発信などのアイデアが出され、センター会場の大人からは、地域の魅力と現状、課題について意見が出されました。

グローバルな視点や身近な人にふるさとの良さを伝える大切さについて、参加者全員が再確認する有意義な対話会となりました。

◆庄内総合支庁子ども家庭支援課
中野 智嘉・加藤 博之